

NATURE

# ネイチャー



## カラフルな鳥たち



アフリカで最も派手できれいな鳥の一種、ライラック  
フレステッド・ローラー(アッポウソウの仲間)



黒を基調とした全身で背中が明るい茶色、顔と脚が赤いバチュラー(タカの仲間)

### 奇抜な色や姿 風土に似合い



動物写真家 須藤一成



ヨーロッパ・ヒーター(ハチクイの仲間)。様々な色が混ざり合っただけでカラフルだ。空中で蜂などの昆虫を捕まえて食べる



上面が黒で下面が真っ赤なクリムソンプレステッド・シユライク(モズの仲間)



スポットバックド・ウーバー(ハタオリドリ)の仲間。スズメより少し大きい程度であるが、黒い顔と赤い目が力強さを感じさせる



サドルビルド・ストーク(コウノトリの仲間)。赤・黒・赤と色分けされた嘴の基部に黄色い鞍が乗っている

アフリカでは、赤・青・黄など、原色を纏った鮮やかな鳥たちが、目を惹きつけてくれる。日本にもきれいな色をした鳥は何種類かいるのだが、アフリカではその色使いにハッとさせられる鳥がたくさん生息している。ライラックフレステッド・ローラーは、金属光沢のある濃い青色から緑がかつた水色、ピンクなど、それぞれの色に主張がある鮮やかな羽毛を持っている。アフリカで最も派手できれいな鳥の一種である。

鮮やかな色で最も気になる鳥は、上面が黒で下面が真っ赤なクリムソンプレステッド・シユライクだ。下面は喉からお尻まで赤く、黒と赤の組み合わせが絶妙だ。この赤は、日陰でその鮮やかさを発揮する。日陰では上面の黒色が沈んで見えにくくなり、下面だけが光も当たっていないのに蛍光色のように真っ赤に輝いて不思議によく目立つ。サドルビルド・ストークもまた奇抜な色使いの持ち主である。サドルは乗馬の鞍という

意味で、ビルは嘴、ストークはコウノトリ、和名は英語をそのまま訳したクラハシコウだ。金属光沢がある深緑や紺色の黒っぽい部分と白のツートンカラーの全身も目を引くが、それ以上にこの嘴に目を奪われる。そして、赤・黒・赤と色分けされた嘴の基部に黄色い鞍が乗っている。基部の赤と黄色の部分は嘴というより皮膚が出張って嘴を取り巻いている。この黄色い鞍が付いていることで、生活しやすくなり餌となる魚が捕りやすくなる。これは到底思えない。装飾のためだけにこの奇抜な嘴が出来上がったのだろうか？ 見れば見るほど奇妙である。

アフリカにはたくさんカラフルな鳥が暮らしている。これらの鳥たちは、きれいな色というだけではなく、その色使いに派手さを感じることが多い。鳥だけでなく、アフリカの人たちもまた原色の衣服を普通に着こなして、違和感がない。鮮やかな色彩がアフリカの風土によく似合っている。



すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に日本やアフリカで野生動物の撮影に取り組む。米原市在住。写真集「Golden Eagle イヌワシ」(平凡社)、DVD「ブラックイーグル」「ツキノワグマ」など。